

平成31年度「全国学力・学習状況調査」本校の結果について

南丹市立美山小学校

平成31年4月18日(木)に6年生で実施した平成31年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校で分析をした結果、本校児童の傾向が概ね把握できましたのでお知らせするとともに、今後、本校では、成果と課題を受けて、改善活動に取り組み、児童に「確かな学力」を身につけさせていきたいと考えています。

【1】概要について

実施日	平成31年4月18日(木)
調査内容	(1) 教科に関する調査 ・国語(14問) ・算数(14問) (2) 質問紙調査 ・生活習慣や学習環境に関する質問調査

【2】本校の結果について

本校の状況を正答数と全国の平均正答数との差で表します。

国語(14問)	同程度
算数(14問)	同程度

本校と全国の 平均正答数の差	-2題		-1題		0題		1題		2題	
	低い	やや低い	同程度		やや高い		高い			

【3】学力について

国語の課題(全国平均と比較して正答率の低かった項目)

- ・資料に図表やグラフなどを用いた目的を捉えること
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- ・学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- ・目的や意図に応じて、質問を工夫すること
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること

◎正答率は、全国平均と比較して概ね同程度であったが、領域別では、相対的に「書くこと」「読むこと」に課題が見られる。

算数の課題（全国平均と比較して正答率の低かった項目）

- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること
- ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること
- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすこと

◎全国平均と比較して、概ね同程度かやや上回る状況であったが、相対的に数学的な考え方についての正答率が低い。数量関係を的確に捉え、判断理由を数学的に表現することに課題がある。

【4】学習状況について

児童質問紙調査結果

<本校の傾向>

- ・自尊感情や学習・生活習慣に関わる質問項目について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。
- ・地域や社会への関心や行事の参加など、地域との連携・協働に関わる項目について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<全国集計値より低い項目>

- ・規範意識が相対的に見ると、肯定的回答が少ない状況にある。
- ・学習に対する興味関心について、国語に関する項目が低くなっている。

◎ 概ね望ましい学習習慣や生活習慣は身に付いている。自己有用感や地域・社会への参画なども全国と比較しても高くなっている。一方で、自分の考えを表現したり、自分のよさを認めたりすることが相対的に低い。算数に対する、学習意欲は高い傾向にあるが、国語に関して学力定着の面での課題が見られる。学習意欲を学力向上につなぐ指導の充実が必要である。

【5】学力課題克服に向けた方策

今回の結果分析を通して、本校児童の学力課題として挙げられる点について、以下の方策を講じ、課題の克服を目指しています。

<教科指導に関して>

- 目的や意図に応じ、必要な内容を取捨選択し、整理して書く指導の充実を図り、伝え合う活動を充実させる。
- 漢字や成句の持つ意味を考えながら、学習した言語事項について積極的に用いて、文や文章の中で正しく使うことができるように指導する。
- ことばの力育成指導員や読書ボランティアと連携し、日常の読書量を確保し、本に慣れ親しませるとともに、児童の語彙を増加させる。
- ICTを授業に有効に活用して、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、個に応じた指導により学習効果を高める。
- 言葉や式を用いて表現する指導を充実させ、算数のノート指導を通して問題解決に用いる情報を書き込み、それらを組み合わせることで解決の筋道を明らかにし、その上で言葉や式を使って説明できるように指導していく。
- 日常生活での事象や、他の教科での場面を取り上げ、その中にある数量関係から規則性を見つける活動を行う。

<家庭学習との連携>

- 家庭学習の内容について質的な見直しを行い、授業とよりリンクしたものとして充実させていく。
- 日々の反復練習によるものだけでなく、自主学習の取組を継続し、児童の主体性を伸ばし、学習意欲の向上を図る。